

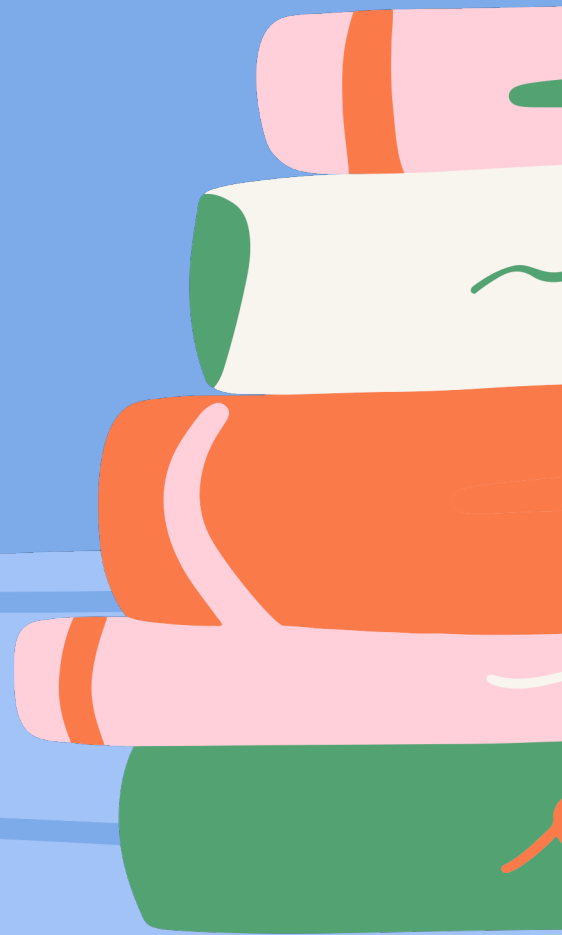
2022年11月27日 会長会第29回会議

# 4つのキーワードによる 人材育成 3.0



大阪MSW協会

藤田 譲



# みなさん、こんにちは！ 人材育成にお悩みは？

「先輩の背中を見て」「習うより慣れろ」が第1世代  
「スーパービジョンの展開」が第2世代



# しかし、スーパービジョンは万能ではない

## バイジューの多様性

バイジューの現在地、学習スタイルはそれぞれ異なる中で、  
成果を求められる

## 人間関係基盤の限界

バイジュー＝バイザー関係は複雑  
関係ベースの人材育成法だけでは厳しい

# 今では第3世代

キーワードから探ってみましょう



# 学習の対象

ソーシャルワークって、  
学ぶのがとても難しい？

- 1 個々の状況に応じた適切な判断が求められる
- 2 仕事の成果は状況に大きく依存する
- 3 役割／責任範囲の曖昧さ

★どういう学習を積み重ねていくか？





# アンラーニング

うまくいかないのには訳がある

仕事を覚えるとは、実は「学び直し」  
「これまでのやり方」は容易に変えられない

# 「できない自分」 との向き合い方

人生に失敗は付き物、とはいうものの

「失敗しました」「うまくいってません」と上司  
へ報告したり、他者から評価を受けたりする経験  
を、素直に、真摯に受け止められる人ばかりでは  
ありません



# 人材育成は、どこも試行錯誤

## 業務マニュアル作成

「標準的な業務手順」  
で共通理解作り

## キャリアラダー

学習内容の「見える化」により  
「現在地」と「目標」の共有を

## 院外研修とリンクさせる

院外での研修は息抜き＋気分転換、  
「違う視点から自分を見つめ直す」機会にも

## 育成する側は誰がサポート？

「上司」は部署内で孤立しがち。  
上司だって、支えてほしい！！

## 養成課程からの学びをつなぐ

養成課程での準備を経て現場へ  
現場でも継続的に学んでいく  
鍵は「ゲーミフィケーション」





# 質問や不明な点は おありですか？

詳しくは、後ほど。あるいは個別に連絡を。  
少しでも参考文献を紹介しておきます。



中原淳『働く大人のための「学び」の教科書』かんき出版

上田信行『プレイフル・シンキング [決定版] 働く人と場を楽しくする思考法』宣伝会議

柳川範之・為末大『Unlearn（アンラーン） 人生100年時代の新しい「学び」』  
（日経BP）



# 2022年11月27日 会長会第29回会議

地域からの求められる職能団体の役割



北海道MSW協会  
木川 幸一



**MSW普及対策（昭和24）**

**厚生省「第1回医療社会事業者従事者講習会」開催**

**受講終了者たちが昭和28年に全国組織を創設**

**昭和29年 北海道でも受講修了者たちが結成準備、**

**昭和32年12月20日**

**北海道医療社会事業家協会の誕生**

**（初代会長 大学病院長（医師））、**

**（2代目会長 厚生省北海道医務出張所長（現：医務局長））**

・

・

**8代目会長 関建久（現：名誉会長）**

**9代目会長**

- ・ **資格を運転免許証くらいと思ってる？**
- ・ **MSWとして生きるって思っている？**

**医師や看護師のように認定、専門、単位制とか、それが良いとは思わないけど・・・**

**ポイント取得へ研修や試験を受けて、  
スキルアップへ努力を重ねていくMSWもいるけど**

**会員サービスや技術開発や新技術普及活動、  
協会の社会貢献やアドボカシーで  
存在価値を示すのも必要かな？**

**地域の中で暮らす患者・家族が抱えている特別な問題を、地域全体の課題として発見・共有し、地域社会全体として解決に向けて取り組んでいく。**

**地域・組織が無意識に排除している、既存の枠組みにはその解決を期待できない場面も多々あるのではないか？**

年々、困難さを増していく気がするけど

**社会資源につなぐ、地域につなぐ（戻る）支援**

- ・ **地域に埋もれた問題**
- ・ **地域社会から（意図的にも？）見逃された問題**

**をこまめに発掘し、それを自ら解決している。**

**だけではなく、MSWは、**

- ・ **地域に問題を投げかけて共有し、**
  - ・ **地域の課題として地域全体で解決していく**
- 枠組みを作っていくことが期待されている？**

**そういった場づくりの機能を果たしていくために、  
MSW協会は、どのような能力を身に着け、どういう  
役回りを演じていけばよいのだろう・・・**

過去の会長会の場合では、こんな意見も例えば・・・

## **「会員増への活動」に縛られなくてもいいんじゃないか？**

**協会が入会を望めば望むほど、実地域の課題から遠ざかっていく？**

- ・会員ウケする企画が増えて、結果安売りとなっていない？

**地域が求められる協会なんてない！**

- ・地域が求めているのは自分の困ったことの解消では？
- ・短期的な（我がまま）な訴えでは？
- ・精神疾患・認知症の高齢者が地域へ帰ってくることを望まないとか…

**短期的な訴えだけでなく、他職種がやらない数年先に必要となる課題を、少しずつ必要と考える限定された会員のみでいいから細々やっていっているのでは？**

**協会が、  
そういった陽の当たらないけど大切な課題に、  
会員の興味がなくても取り組みます！  
という会長の「決断」が必要では？**

- ・ 会員新規確保と維持
- ・ 協会運営体制（コロナ禍、役員のなり手確保）
- ・ 地域から求められる職能団体の役割
- ・ 研修以外の協会活動って

**会長って、前会長から聞いたとおり、  
重圧と孤独  
期待を背負うプレッシャー  
楽しいだけではすまない、  
苦勞することの方がずっと多い  
（9代目）**



# 全国医療ソーシャルワーカー協会 基礎調査2022 報告



---

**JASWHS** 公益社団法人 日本医療ソーシャルワーカー協会  
Japanese Association of Social Workers in Health Services

# 調査の目的

日本協会・都道府県医療ソーシャルワーカー協会の組織情報を定期で収集することにより本邦における医療ソーシャルワーカー職能団体の情勢を相互に把握する。もって、各協会が組織運営の参考にしたり、関係団体との協議の場で使用する参考資料とする。

定期・・・毎年7月に実施

# 調査概要

## ■実施主体

日本医療ソーシャルワーカー協会

## ■対象

- ・日本医療ソーシャルワーカー協会
- ・都道府県医療ソーシャルワーカー協会（医療社会事業協会等を含む） 47協会

※**会員個人ではない。**

## ■調査方法

SurveyMonkeyによるオンライン調査

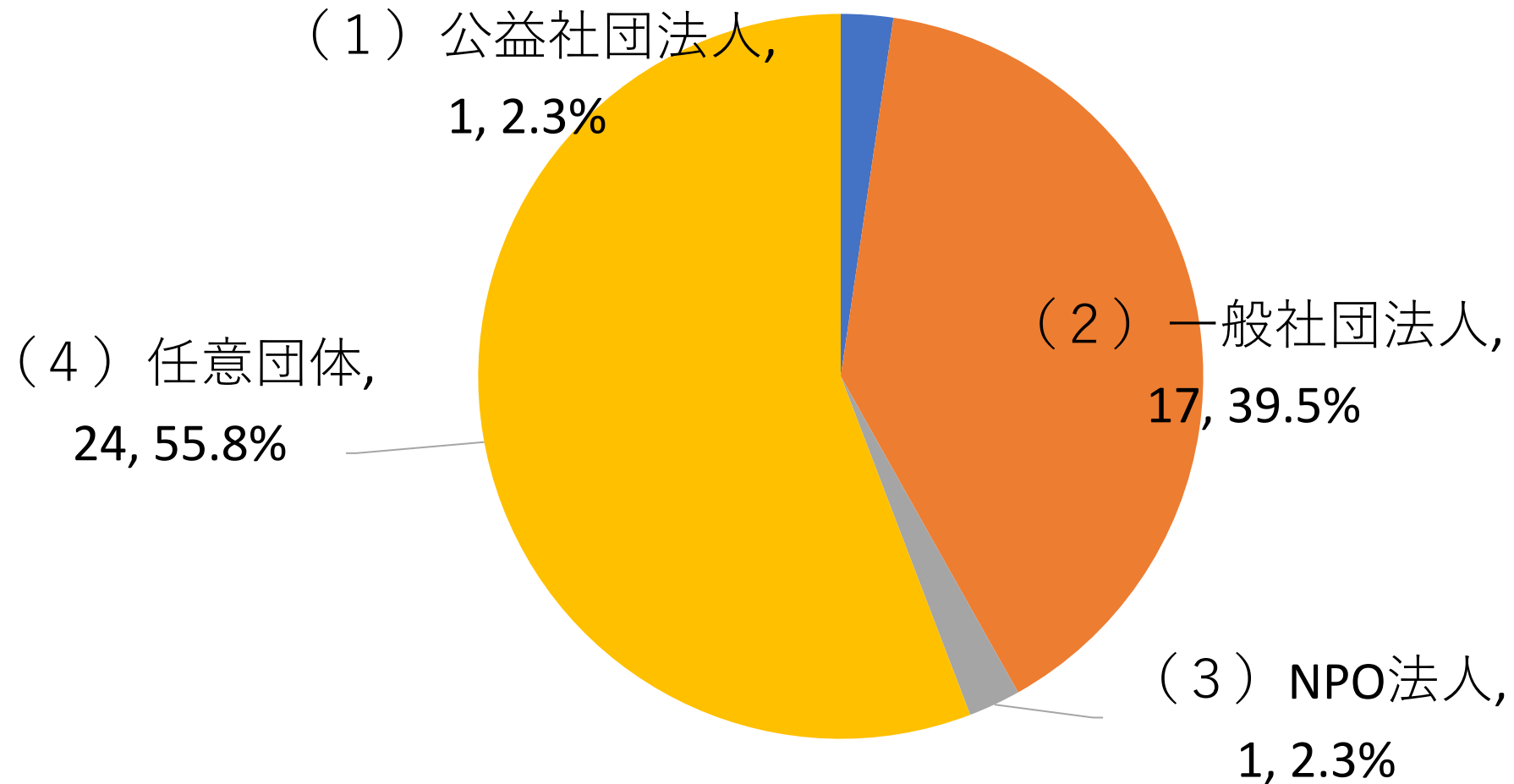
## ■調査期間

2022年7月1日 10:00～7月21日 17:00（21日間）※当初14日から1週間延長

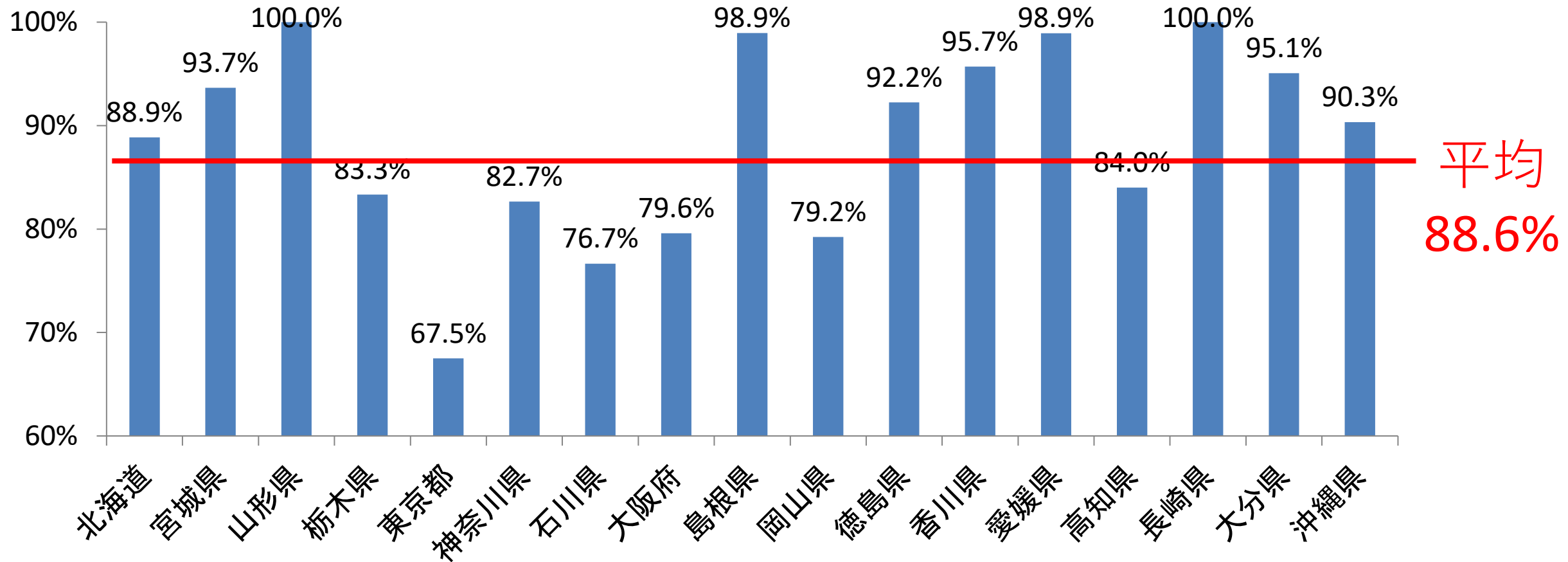
## ■回収率

**89.6**%（43協会/48協会）

# 法人化の状況（n=43）

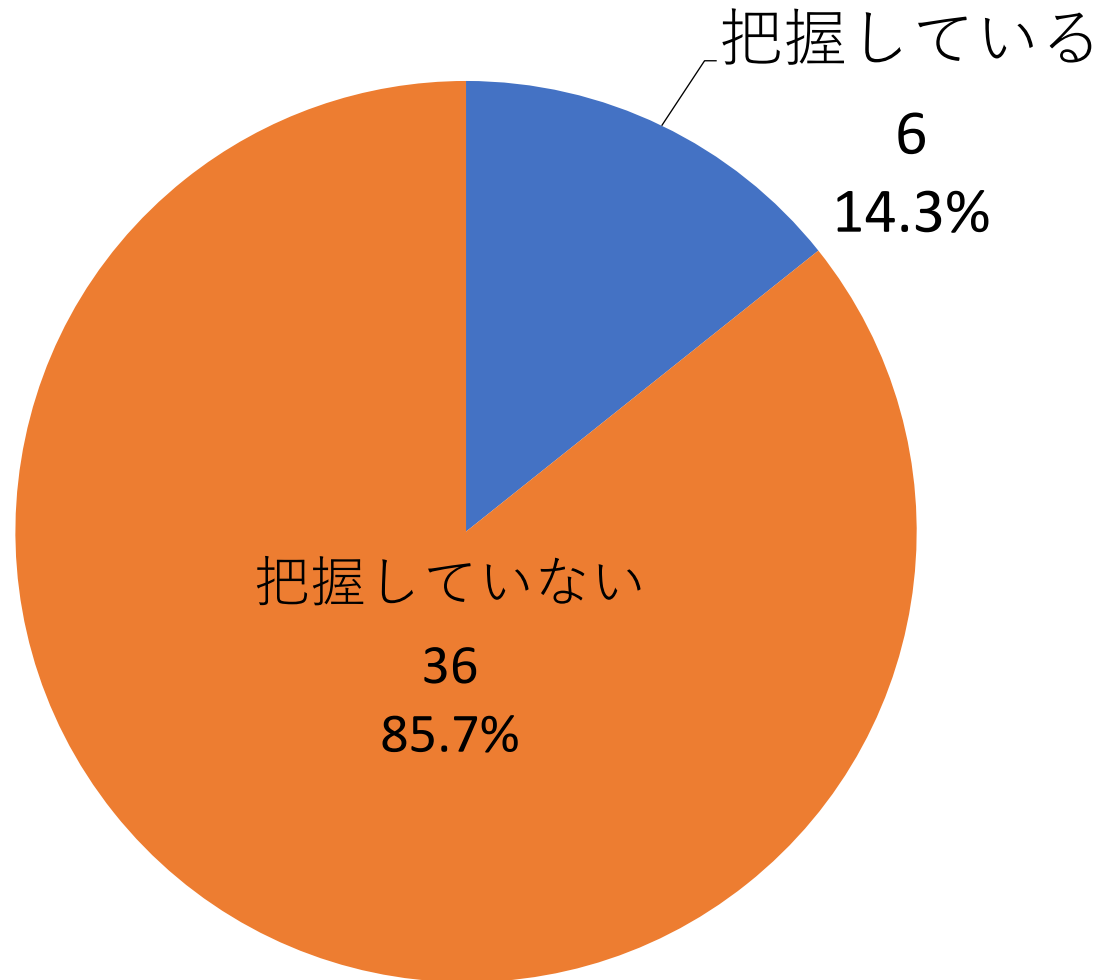


# 会員に占める社会福祉士の割合（n=17）



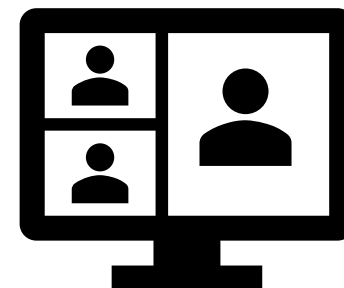
※以降のスライドは、都道府県協会からの回答のみを参照しています。

# 会員が日本協会に加入していることを把握している都道府県協会（n=42）

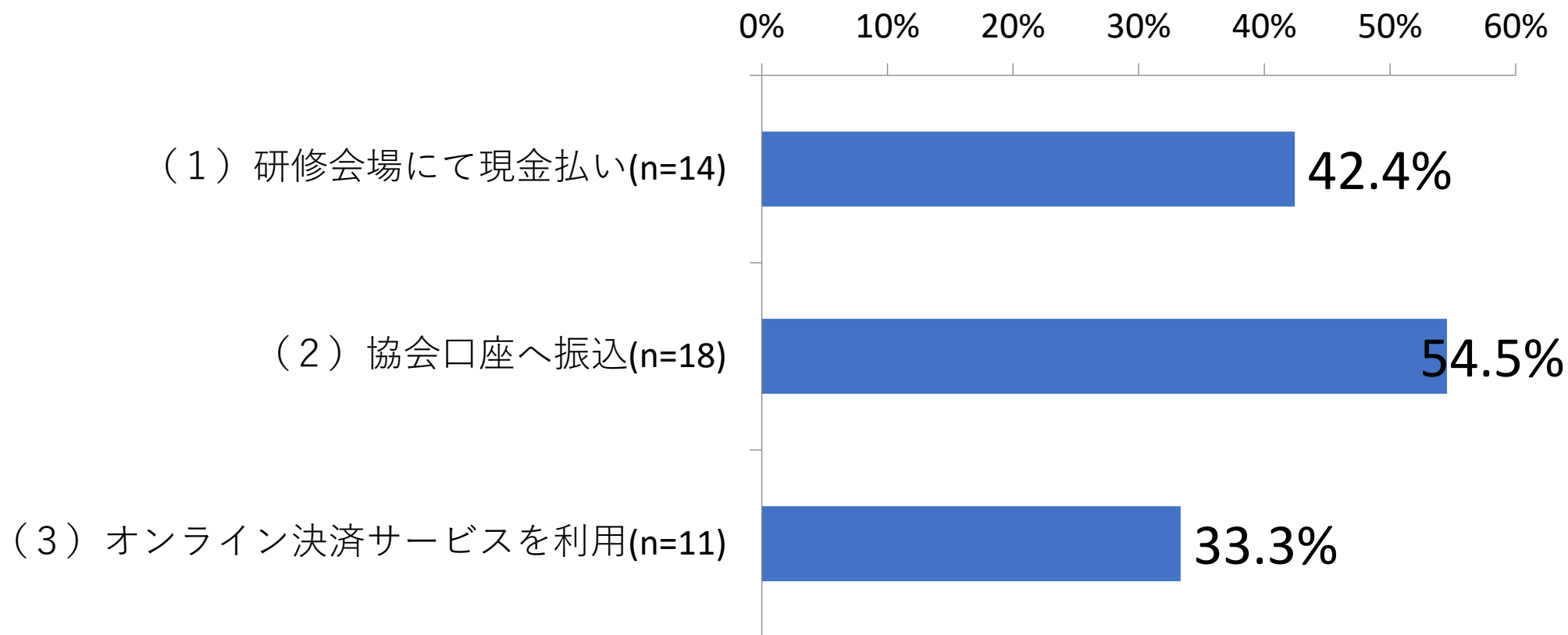



# オンライン研修の実施状況（n=42）

実施している  
100.0%



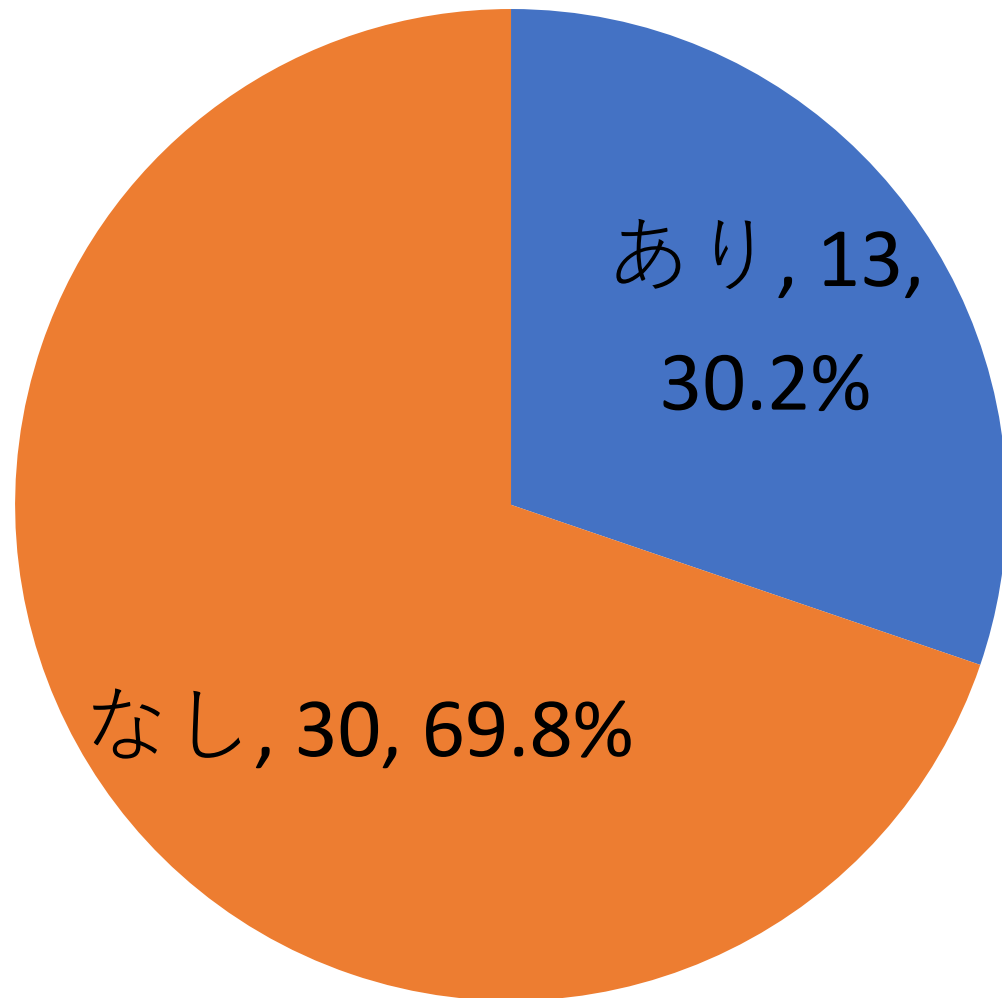
## 研修参加費の徴収方法（複数回答）（n=42）



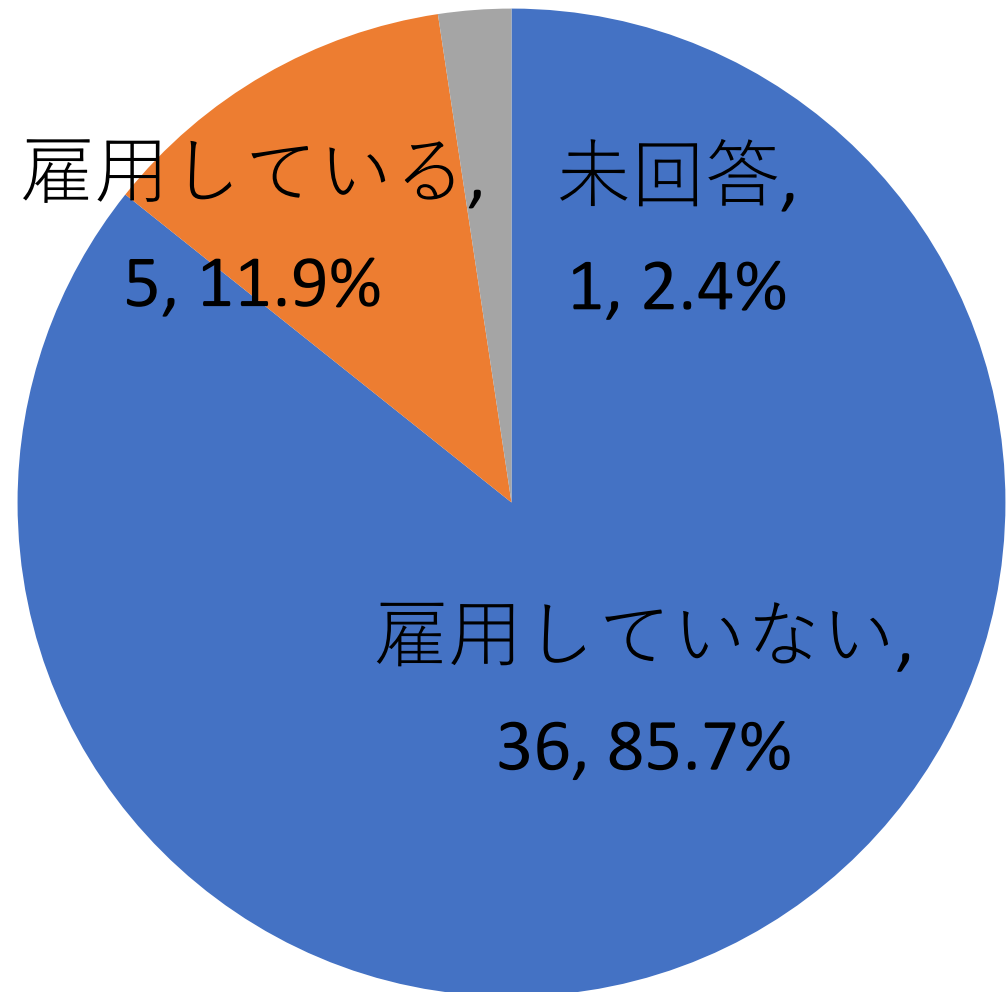
オンライン決済サービスの内訳：すべて  **Peatix**



専用事務所 (n=42)



事務員雇用 (N=42)



# 弁護士・司法書士・税理士・社会保険労務士 との業務委託契約（n=12）

---

## 内容

政務業務（法人税等の税務書類の作成、年末調整及び支払調書作成）、会計業務（総勘定元帳、資産表の作成、帳簿入力代行、決算書類作成）

税理士：①賃貸対照表、活動計算書の作成②法人県民税、法人市民税の申請または減免申請③源泉所得税の申告及び支払調書の作成④その他会計上の公的手続き及び相続

司法書士：決算書作成のための顧問契約

税理士による会計資料作成

税理士への年度末調整など

司法書士：協会運営や手続きに関しての相談、手続きの業務委託 社会保険労務士：会員個人を対象に年金、健康保険、雇用保険制度等に関する相談、助言 会員の労働環境に関する相談、助言

税理士さんに会計業務、納税について委託契約しています

税理士法人 税務・会計サポート 司法書士法人 登記サポート 弁護士 法律相談

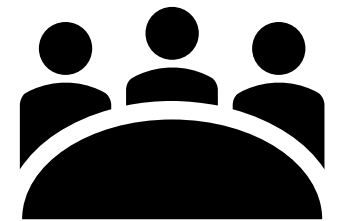
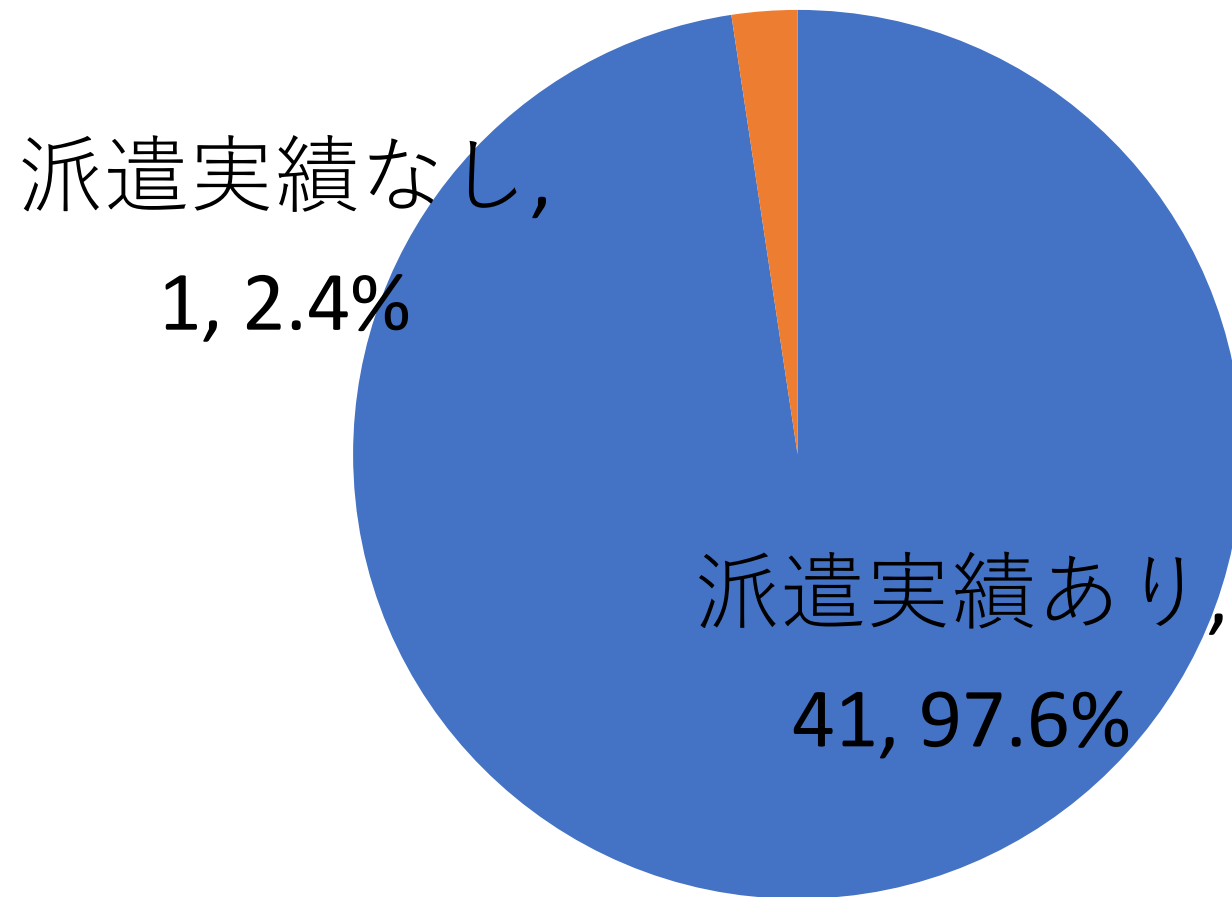
税理士へ財務諸表作成依頼

司法書士：登記等に関すること 税理士：経理に関すること

決算内容の精査

弁護士：簡易な法律相談、法律文書の作成等の検討・助言等 社会保険労務士：人事労務相談、就業規則のチェック等 税理士・公認会計士：月次会計・決算・内閣府報告の作成等

# 行政・関係団体の委員会などへの参加・ 協会からの派遣実績（n=42）



# 行政・関係団体の委員会などへの参加・協会からの派遣実績（例：沖縄県協会）

・沖縄県がん対策推進協議会 ・沖縄県がん対策推進計画検討会 ・沖縄県地域両立支援推進チーム ・沖縄県循環器病対策推進協議会 ・沖縄県循環器病対策推進協議会脳卒中対策部会 ・心不全に係る地域連携体制構築事業検討委員会 ・沖縄県日常生活自立支援事業契約締結審査会 ・沖縄県福祉サービス運営適正化委員会 ・医療機能分化連携推進事業作業部会 ・おきなわ脳卒中地域連携委員会幹事会 【沖縄県委託事業】 ・入退院支援連携デザイン事業 ・多職種コンソーシアム事業 【市町村】 ・在宅医療介護連携推進事業（南部） ・在宅医療介護連携推進事業（那覇） ・在宅医療介護連携推進事業（沖縄市） ・在宅医療介護連携推進事業（うるま市） ・在宅医療介護連携推進事業（宜野湾市） ・在宅医療介護連携推進事業（広域 A・B・C） ・那覇市ちゃーがんじゅう課 WG ・沖縄市北部圏域地域ケア会議 ・うるま市認知症初期集中チーム ・うるま市地域包括協議会 ・12市町村入退院支援研修会WG 【職能団体等】 ・沖縄県介護支援専門員専門研修課程Ⅰ講師 ・沖縄県介護支援専門員更新研修会講師 ・沖縄県ソーシャルワーカー協議会 ・ハンセン病回復者等の支援活動担当チーム協力員 ・ふれあい福祉協会ハート相談センター ・沖縄県ゆうな協会ソーシャルワーカー

各都道府県協会で、非常に多様な委員会への参加、派遣実績があった。

# 主なポイント

- コロナ禍においても会員の学びを保証するために、**研修のオンライン化**が進んでいる。
  - 日本協会ホームページに、都道府県協会主催の研修を掲載しやすく改善（月間アクセス数 約**1,800**回）。
- 行政・関係団体の委員会などへの参加・協会からの派遣実績は**ほぼすべての**都道府県協会であり、かつ**広範囲**である。
  - 医療ソーシャルワーカーの職能団体として意見を求められる機会が増加。国の法律や要綱に基づいて実施する、がん対策推進協議会・地域両立支援推進チーム・循環器病対策推進協議会など、政府・都道府県で実施する主要な会議体については、日本協会と都道府県協会に密に情報共有・意見交換しつつ、歩調を合わせながら職能団体として発言できるよう取り組んでいきたい。

# 全国医療ソーシャルワーカー協会基礎調査2022報告書・元データ・規定集

以下のオンラインフォルダに配架しています。他の集計結果も是非ご覧ください。

<https://bit.ly/3TriZCb>

以下のQRコードからもアクセス可能です。



※都道府県協会理事会内での共有に限りご使用ください

調査へのご協力ありがとうございました

来年度も引き続き、ご協力の程よろしくお願い致します。

→今後は経年変化を見ることが可能となります。

=全国レベルの活動と日本協会・都道府県協会の協力案件について=

■厚労省・内閣府

- ①医政局研修生（任期１年）の推薦
- ②健康局がん疾病対策課『循環器病対策推進協議会』『がん対策推進協議会』『がん診療拠点病院等の指定要件に関するワーキンググループ』
- ③子ども家庭局家庭福祉課『子ども家庭福祉の認定資格の取得に係る研修等に関する検討会』『ヤングケアラー連携マニュアル作成委員会』
- ④労働基準局安全衛生部労働衛生課『治療と仕事の両立支援事業における両立支援マニュアル作成委員会』『治療と職業生活の両立支援広報事業』広報委員
- ⑤内閣府『アルコール健康障害対策関係者会議』

■当協会の中期事業計画

公益社団法人 日本医療ソーシャルワーカー協会 中期事業計画(2022～2025年度)								
基本計画		中期検討内容	基本計画		中期検討内容	基本計画		
分類	大項目		分類	大項目		分類	大項目	
基盤整備に向けた取組	1. 全国規模の公益法人としての組織体制の整備	1)全都道府県協会との連携強化・役割の見直し	人の尊厳、人権を尊重するソーシャルワークの推進に向けた取組	1. ソーシャルワークの普及・啓発・発展	1)社会貢献事業の推進	専門性向上に向けた取組	1. 会員の主体的な成長支援	1)MSWのキャリアラダー開発
		2)組織運営方法の見直し			2)調査研究活動の推進			2)研修ラダーの開発
		3)外部理事・協力員の登用			3)国際活動への更なる貢献			3)認定取得者等の協会事業へ(チーム活動)の積極的な登用
		4)会員に対して公益法人としての使命の啓発			4)保健医療分野における社会福祉士の適正配置			4)現在の研修内容・実施方法の見直し
		5)各種規程の整備(定款・施行規則・規定の見直し)			5)MSWを志望する学生の増加			1)都道府県協会との協働開催やブロック開催の支援
	2. 会員情報の適切な管理	1)より詳細な会員情報のデータベース化			6)業務指針の改定		2. 研修事業の整備・発展	2)研究発表や講演業績等のデータベース化
		2)協会事業への貢献実績の把握			7)倫理綱領行動基準の改定			3)会員個人の研修参加実績等の一元管理
		3)離職人材バンクの稼働		1)課題の明確化	3. 認定医療ソーシャルワーカー制度の成熟・発展		1)会員の取得率向上	
	3. 危機管理体制の構築	1)対応マニュアルの整備		2)団体統合実現に向けての取組み			2)スーパービジョンの普及・拡大・定着	
		4. 事務局機能の強化		1)適正な要員数の確保	3.3 団体統合への道程の明確化		1)ロードマップの作成	
	事務局職員の雇用環境・就業規則などの確認			2)全国大会の共同開催				
	2)適材者の採用		4. 社会に向けた発信	1)広く国民がSWの役割等を認知する				
	3)事務作業のICT化			5. 他団体との連携強化	1)JFSW(国際含む)、SCSの研究、国際医療財団			
	4)発信機能の強化	2)全日病、チーム医療推進協議会、国民医療推進協議会						
		3)SCS(政策)、議員連盟						

■基盤整備に向けた取り組み

- ・都道府県協会ともしっかり繋がるために「研修情報等の発信体制の整備」
- ・各県協会の現状把握のための「基礎調査」の実施
- ・すべての事業の基盤となる「事務局機能の強化」

■人の尊厳、人権を尊重するソーシャルワークの推進に向けた取り組み

- ・ソーシャルワークの価値を社会の基盤に据えるために「ソーシャルワーク3団体の統合」、「都道府県協会との統合」を見据え、大同団結を目指す
- ・全国大会での4団体企画（シンポジウム）の固定開催

■専門性向上に向けた取り組み

- ・「都道府県や他団体との研修事業の共同開催や研修の相互乗り入れ」
- ・認定事業の推進